

市民のみなさんにとって、より身近な議会を目指して！

# しょうばり市議会だより WEB版 第05号

～総務常任委員会編～

～総務常任委員会の活動について～

今年度、総務常任委員会では、

- 公契約条例について
- 職員の働き方改革について
- 持続可能な財政運営について

の3つの柱を中心に調査活動を行なっています。

## 委員会メンバー

委員長	五島	誠
副委員長	松本	みのり
委員	谷口	隆明
	横路	政之
	堀井	慎一朗
	桜田	亮太



埼玉県戸田市役所内  
議場にて  
メンバー集合写真を

市の限られた人と予算を生かし、よりよい行政サービスにつなげるため、本市の行政経営改革をリードする行政管理課長と共に、埼玉県入間市が実施している公開事業見直し制度「いるまドック」と、埼玉県戸田市が進めている「デジタル市役所」の取り組みについて、視察を行いました。

## 入間市「いるまドック」

人口14万人を超え、働き手の多い入間市であっても、より給料の高い民間企業に人が流れ、人材不足の悩みがあるとのことでした。



入間市では、2021年から「いるまドック」と呼ばれる市民参加型の公開事業見直しを行ってきた中で、イベント的な公開見直しでは、労力に見合った成果につながらないとの反省があったそうです。

より良い事業見直しのあり方を模索した結果、現在は庁内での見直しを基本としながら、**Webディスカッションシステム「D-Agree」**を活用して市民の視点を取り入れる工夫をされています。

こちらは、あらかじめ設定したテーマに対しての意見を、ウェブ上でAIが上手く促したり、深めたりしつつ集約するシステムで、市民は、募集期間中の好きな時間帯に、意見を書き込んだり、他の意見に対し「いいね！」で共感を示すことも出来、より多くの方が意見を届けやすい仕組みとなっており、事業見直しだけに限らず、活用出来るものと思われました。

事業の見直し後、いざ廃止とするにはかなりのエネルギーが必要となるのはどこの町も共通です。入間市では、まずは「**職員一人ひとりが事業の必要性や効果を改めて考える意識改革**」を重視しているとのことでした。うまくいかなかった取組についても隠さず、その反省と改善の過程を共有して下さる姿勢にも大きな学びがありました。



市域の10分の1が茶畑だそう。市役所近くの狭山茶農業協同組合には、東城町小奴可にゆかりのある方がいらしてびっくりしました！



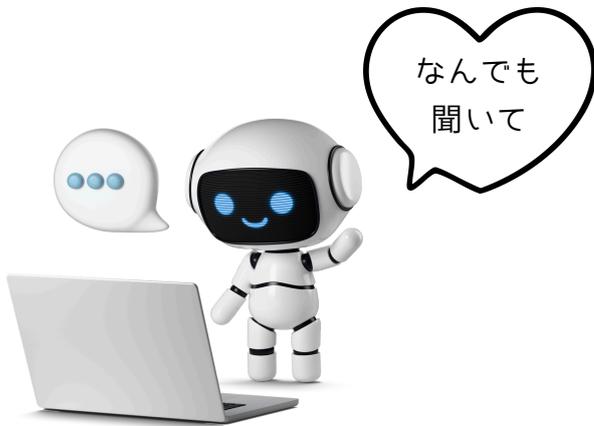
## 戸田市「デジタル市役所」

お話を伺った市役所会議室前に、  
うれしいお出迎えがありました。  
こちらもデジタルで！



埼玉県戸田市は、行政手続きのオンライン化、AI総合案内サービス、ペーパーレス化など、「デジタル市役所」の推進に力を入られている自治体です。

中でも「AI総合サービス」は、利用者からの質問に、自動で文章や音声で回答する「生成AIチャットボット」を活用し、幅広い行政問い合わせに24時間対応する仕組み。これにより、市民からの問い合わせ対応がスピードアップしているとのことでした。



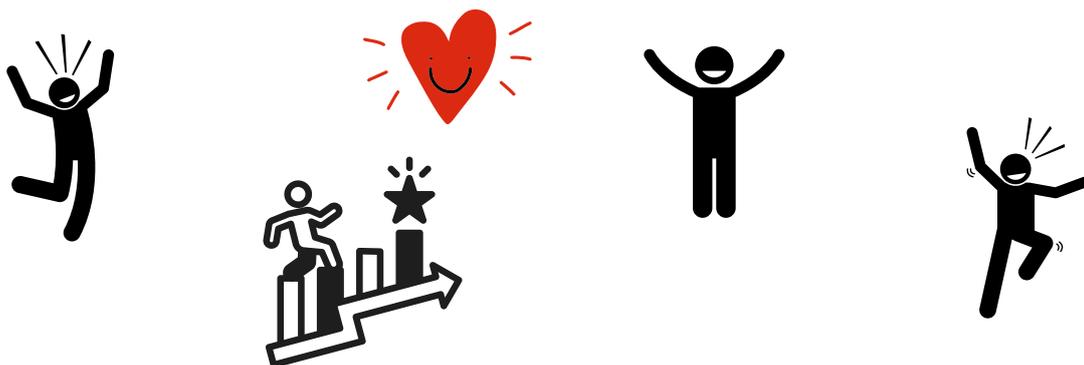
これまでは市の職員がQ&Aを考えたものを案内していましたが、今後、AIが市のHPの内容から最新情報を選び出して答えられる、新サービスに移行予定だそうです。

戸田市では、「自治体における生成AI活用ガイド」を作成され、住民向け広報文の校正、条例改正案の検討資料作成、イベント企画書の骨子作成、議事録要約など、様々な業務にAIを活用し、大幅な時間短縮につながられています。

本市でも、職員の負担軽減のためにAI活用の幅をさらに広げ、人手不足の中でも、直接の対話や対応が必要な業務により注力出来るよう、環境づくりを進める必要があると感じました。

「AIは、使うか使わないかではなく、いかに使うかの時代。正しい使い方を覚え、リスクを正しく理解しておくことこそが必要」

「間違ふこともあるかもしれないが、それ以上に良いことが沢山あるので、失敗、間違いを恐れ過ぎず、まずはやってみて改善、修正を重ねていくことが大事。」



とのお話が印象に残りました。

その姿勢や文化こそ根付かせて、市民も、まちのために働く職員も幸せなまちづくりを進められるよう、私たち議員も、知恵と力を出し合っていきます。

ぜひ皆さんからのお声もお届けください。  
いつでもお待ちしております。



発行/2026年 3月6日 発行者/庄原市議会（編集：議会広報委員会）  
〒727-8501 庄原市中本町一丁目 10 番 1 号 0824-73-1162